

1573年、中瀬を流れる八木川で金が発見された。その後まもなく鉾山が開かれ、それは政府にとって非常に重要な収入源となったのでその発掘地域は城下町と同じくらい厳重に警備された。つづいてアンチモンが発見され、20世紀中頃までに中瀬鉾山は、日本で最大のアンチモン鉾石の資源地となった。鉾山は1969年に閉鎖したが、アンチモンの精錬は続いた。今日では、国内すべてのアンチモン製品の7割が今も中瀬で生産されている。旧鉾山はツアー用に開かれていないが、中瀬観光案内所は町のガイド付きツアーを提供している。